

応援を力に変えて

金屋中・1 大竹 佑弥

七月二十日に令和七年度東三河総合体育大会が、アクアリーナ豊橋で行われました。中学一年生の私は、通う中学校に水泳部がないため、所属するクラブチームで参加しました。たくさんの中学校やクラブチームから選手がエントリーされて、熱戦が繰り広げられました。

私は五歳から水泳を習い始め、いつも楽しくスイミングスクールに通っていました。クラスが進級するたびに新しい泳ぎ方を覚え、四泳法を泳げるようになるより速く泳げるようになりたいと思い、小学生のときに選手コースに進みました。これまでもたくさんの水泳大会に参加しました。初めて選手として参加したのは、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大した時期で、家族の入場、応援も認められない状況でした。この状況はつい最近まで続きました。会場では、自分の出場種目に合わせて各自でウォーミングアップをして、招集に向かいます。ほとんどのプールでは、審判の方しかいないため、もちろん声援はありません。名古屋にある日本ガイシアリーナや、浜松市総合水泳場トビオはプールの周りに観客席があり、チームの控え場所になっていますが、新型コロナウイルス感染症予防のため、声出し応援ができない時期が長く続きました。

アクアリーナ豊橋もプールを取り囲むように観客席が設けられています。長水路といわれる五十メートルのプールです。いつも一緒に練習をしているクラブチームの友達で、通っている中学校の水泳部で出場する人もいました。今までは同じクラブチームで水泳大会に出場していたので、なんだか変な感じがしました。

私たちに用意された観客席の隣は中学校の部活動から参加してい

る選手たちでした。おそろいのシャツを着て、メガホンがたくさん用意されていました。その中学校の選手が出場すると、観客席にいる生徒が全員メガホンを持って応援をします。振り付きの掛け声です。今まで私が出場していた大会では、コーチが大きな声で選手の名前を呼んだり、掛け声を掛けたりするのは見たことがありませんが、チームみんなが応援している様子を見て、とても素晴らしいことだと思いました。きっと応援する側も、応援される側も気分が盛り上がって、出場した皆が、よい記録を出せただろうと思います。

東三河総合体育大会には、両親と弟が応援に来てくれました。これまで何度も水泳大会に出場してきましたが、家族全員そろって応援に来てくれたのは初めてでした。日本ガイシアリーナやトビオでは、応援席の入場券は一枚、多くても二枚しか発行されないのですが、家族全員で応援に来られません。今回、中学校一年生として参加する東三河総合体育大会が初めて家族全員に応援してもらえる大会になりました。

私はいちばん得意な背泳ぎに出場しました。クラブチームで出場する大会では、年齢区分が細かく設定されているので、中学一年生と三年生では同じ区分にはなりません。ところが、東三河総合体育大会では、中学生という区分でタイムトライアルをします。いつもの大会で、中学三年生と一緒に泳ぐことはあまりなく、さらに愛知県大会の標準記録も意識したレースであったため、とても緊張しました。

ただ、家族が来てくれていることは、何よりも安心につながりました。弟はスマートフォンで動画をずっと見ていて、いつもどおりの弟を見て、なんだかリラックスしてレースを待つことができました。友達が出ているレースはいつものように心の中で応援しました。いいスタートができたかな、五十メートルの折り返しの順位はどうかな、最後の十五メートルも頑張れ、と。隣にいる別の中学校の選手も、一生懸命応援しています。その中学校だけではなく、レース

に出ている全員が応援されているように感じます。泳法によってあまり周りの音が耳に入っていないこともあります。平泳ぎのように水面に顔が上がるタイミングで掛け声が聞こえることもあります。それ以外は水中にいることも長く、自分や周りの選手の水をかく音に応援がかき消されてしまうことが多いです。けれど、こんなに応援されているのを感じて、とても強く、自分もやってみようという気分になりました。

いつもどおり招集には一人で向かいます。いつもの大会より待ち時間が短く、すぐにレースの準備になりました。今回は三位以内を目標にしましたが、当日に中学三年生の追加選手の発表もあつたため、少し心が乱されましたが、やるしかありません。いつもどおり背泳ぎのスタートの前にプールに飛び込みます。家族やクラブチームの他のお母さんの声が聞こえました。スタートに集中し、よいスタートが切れたと思います。水の中をなるべく長く潜って、イルカのように進むバサロを頑張ります。ドルフィンキックを使って、水中で仰向けのまま進む方法で、通常の泳法に比べて水の抵抗を大幅に減少させることができます。浮き上がった手で水をキャッチしながら、足でしなやかに水を蹴ります。五メートル手前のフラッグまでリズムよく進み、ターンに備えます。長水路のプールはいつも泳いでいるプールより長いので、とても疲れます。アップのときも、最後の二十五メートルで体が重くなつたので、とても心配でした。泳いでいる最中は、水の音で応援の声は聞こえませんでした。家族が応援してくれていることを忘れずに、全力を出し切りました。結果は、自己ベスト更新とはいかず、三位入賞もできませんでした。二年生で県大会に必ず出場するという目標ができました。

自分のレースに集中しながらも、周りの応援が耳に入ってくるように、リラックスした状態でレースに臨むことができれば、よりよい結果が生まれるような気がします。オリンピックや箱根駅伝では、

たくさん観客が選手の近くで声援を送り、世界中の人がテレビを通して選手を応援しています。その応援を力に変えて、自己ベストが出せるように、これからも水泳に取り組んでいきたいと思えた大会でした。そして、これからは友達のことでも一生懸命に応援しようと思った大会でした。